



## 過ぎ去りし冬のこと・・・

北見市 杉山重之

一昨年冬のすることになるが、二月も半ばの昼下がり、スキー場の事務所でなんとなく過ごしていると、一見して中国人と思われる学生風の大柄な女性が入ってきた。

彼女は「シーズン中レンタルできる板はないか?」と言うことであった。そういうレンタルはここではしていないと伝える・・・。

よく話を聞いてみると、彼女は北見北斗高校の一年生で、やはり中国人であった。父親が北見工業大学の大学院で勉強中とのこと、母親はパートの仕事をしているとのことである。彼女は、北見市立東陵中学校から北斗高校に入ったとのこと。今では地元の子供たちでもなかなか入れない北斗高校である。

そういう意味では大変優秀な子供といえる。

—————\*—————\*—————\*—————

日本には六年前から来ているとのこと、言葉だけでは全く中国人とは思えない流暢な日本語を話すのである。たまたま私は、その年の一月末から二月の初めにかけて北京郊外にある石京龍スキー場で中国のスキー教師を対象に技術講習会を実施してきた時に受けた印象が「中国の人は原色を好む」というイメージがあったのか、彼女の明るいブルーのオーバーコートを見た瞬間に中国人と思ったのである。ちょうどその頃の私は、石京龍スキー場へ行った折に持ち帰った石京龍スキー場のパンフレットを日本語に訳してくれる人を探していた時だったので、渡りに船とばかりにパンフの日本語訳を頼んだのであった。

その代わりにシーズン中使えるスキー用具を世話してあげる約束をした。

—————\*—————\*—————\*—————

近隣の国々からは、スキー先進国と言われる我が国、その中でもスキーが最も盛んと言われる北海道・・・その北海道スキー連盟が国際交流事業として行っている海外スキー交流事業、前年までの三年間は韓国との交流を行ってきた。引き続きこの年からは、中国との交流が始まった。中国の指導者制度の確立やスキー技術普及のための手助けをするべくスキー技術の指導と現地の状況を視察する目的で、中国へ出かけることになっていた。

それに先立って前年の十二月、前中国総領事が来札。この方は札幌に駐在していたときに、札幌藻岩山スキー学校の登山校長にスキー指導を受けていたことがあり、この方の来札する機会にあわせて夕食会を計画、この席上で中国のスキー事情などの予備知識をご教授していただいた。

—————\*—————\*—————\*—————

最も驚いたことは、まず我々が通常使っているスキー、ブーツ、ウェアの三点で日本ではおおよそ二十万円位で揃う。ところが中国では、日本円にしておおよそ二百万円もかかると言うのではないか。賃金は日本の十分の一か二十分の一程度なのだろうから・・・。

相当高価でちょっとした自家用車より高いとのこと。いずれにしても中国では貧富の差が大きいということか。スキーをしているような人達は一部の富裕層ということである。

過去に日本人がオーストリーのスキー指導者の資格を取りに出かけていたように、近隣諸国には指導者の制度や教程なるものがない韓国、中国の人々が日本のスキー場、とりわけ北海道や長野県のスキー場へ出かけてきてスキー技術

や指導法などの取得に励んでいるのも伺える。

—————\*—————\*—————\*—————

ところでスキー用具を用意する約束をしたので、早速スクールの女性教師に相談したところ、昨年まで自分が使っていた靴とスキーを提供してくれるとのこと。ありがたい。後はウエアだけ。しかし、大変体格が良い子なので女性物では間に合いそうにもない。私と変わらない体格である……。

そこで私が三シーズン前に時々着用していた美津濃のウエアをあげることにした。もちろん洗濯済みである。数日後の土曜日その高校生がやってきた。もちろん頼んだパンフの日本語訳を持って。早速、約束のスキー用具一式を提供する。ちょっと心配だったスキーウエアもちょうど良い大きさ、靴も全く問題ない。スキーもばっちりチューンナップ済み。

「全てあなたにあげる。」と言うと高校生は目を輝かせて大喜び！スキーを教える約束までしたもののその後、高校生は期末試験、私はシーズン後半の行事でスキー場を留守にすることが多く、いつの間にかシーズンは終了。

来シーズンこそ高校生の滑りを見てあげたいと思っはいるが、どうなることやら。

ところで北京は、韓国と同じように降雪がほとんど無いところで、樹木がほとんどない岩山に人工降雪機で作上げたゲレンデが特徴である。ホテルの裏には、いきなりというか切り立った標高およそ五百メートルほどの岩山、山には木が生えてない。樹木が生えていないことで樹木による空気の浄化作用ができない状況にあることも伺える。

中国の大気汚染は、想像以上で「澄み切った碧い北見の空」で始まる北見市民憲章、そのようなきれいな空気のところで過ごしている私にとっては、非常に息苦しい中国のスキーであった。



人工雪の石京龍スキー場



石京龍スキー場の宿泊ホテル